

教団新報

定 価 1部150円(本体137円+共214円)
予約購読料 1年分 千共 5,350円
紙代のみ 3,750円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546
FAX03(3207)3918
URL http://uccj.org
URL http://uccj.org
発行人 秋 山 徹
編集主筆 嶋 田 恵 悟
印刷所 株式会社きかんし



伝道対策、機構改定を議論

第41総会期

常議員会

第5回

台風15号の被害を報告

第5回常議員会が10月7〜8日、教団会議室で常議員29名が出席して開催された。

総幹事報告において、秋山徹総幹事は、台風15号被害を報告。岸俊彦東京教区議長がお見舞いに対する感謝を述べ、伊豆諸島の波浮教会が大きな被害を受け、大島元村教会と合同で礼拝していることを報告した。また、岸憲秀千葉支区長が支区内の被災状況を報告し、「かいた教会が特に支援を必要としているが、お見舞いと支区の特別活動費で対応する」と述べた。

質疑の中で、天皇代替わりに対する活動が問われ、秋山総幹事は、「教団総会決議の趣旨に従い、各教会・団体で行動してほしい。10月22日は事務局を休みしないことと姿勢を示す」と述べた。

伝道対策 機構改定

機構改定のスケジュールを提示

教団伝道対策検討委員会報告では、二つの小委員会が各々の活動と協議内容を伝えた。

まず岸俊彦教団伝道推進基本方針展開検討小委員長が、『信徒の友』に各教区からの「祈りに見える教会」を掲載する企画について、第4回常議員会の議決からの変更

『信徒の友』各号に掲載する教会数等』に関する説明を加えつつ、取り組みの現状を報告した。

次に久世そらち教団機構改定検討小委員長が機構改定案として、総会議員数案(議員数は教師100名、信徒100名、推薦議員は16名を超えない数。各教区選出議員数について最初に配分する議員数は教師2名、信徒2名)および、常議員数案(三役と教師6名、信徒6名とする)を提示した。事務局・委員会の

申請辞退の申し出があった教会、資金計画の修正を余儀なくされ、新たに申請する教会などがあり、丁寧に対応していることが報告された。

「9月30日現在、献金は3823万3710円。東中国教区と岡山キリスト災害支援室が主催する『まびくら』に800万円を送金したほか、昨年の台風24号で被害を受けていた在日大韓基督教会大阪教会にお見舞い200万円を送った」と

報告した。教師養成制度検討委員会の報告において、菅原力委員長は、第41回教団総会で教憲9条変更とを受けて、二種教職制についての議論を終了することを報告。これまでに、「教憲9条作業検討委員会」(2004、2006年に設置)の小林眞委員長、藤掛順一書記、および、梅崎浩二変

更議案提案者、近藤勝彦元東京神学大学学長から話を聞いた内容を詳細に報告した。梅崎常議員は、「共通するところを基盤として前に進んでいくことを希望する」と述べた。

報告があり、合格者を承認した。前回、採決を見送った部落解放センター決算、予算を承認した。指摘されていた教団からセクターへの繰入金とセンター側の繰入金の間の齟齬は、教団財務において「定期代伝票仕分けが食い違っていたのが原因」との説明があり、修正がなされた。

方針展開検討小委員会が進めている献金運動により献けられた献金を小規模教会が活かしきれぬよう、教区の配慮を求める声が上がった。また、二小委員会の協議内容を常議員会がメール等を活用してすみやかに共有できるようにして欲しいとの要望があった。質疑と協議を終えて、伝道対策検討委員会報告は承認された。

信仰職制 制委

按手を巡る答申、保留

信仰職制委員会報告では、特に、関東教区常置委員会、および関東教区総会議長東野尚志名義で提出された諮問に対する答申について、議論が活発になされた。

冒頭、武田真治委員長から、教団新報4911号に掲載された当該答申について、「教団の正教師としてすでに承認され

ているので、2「個人の按手の問題は、教団総会(総会閉会中は常議員会)ではなく、教区総会で取り扱うべき事項であり、教区を飛ばして常議員会で議決というのはおかしい話ではないか」という質問が出された。

1については武田委員長は、「関東教区は、教会連合の按手の有効性をま

で、教団で判断してほしいと考えている」と意見があった。

その後、教会連合の按手の有効性についての議論がされ、さまざまな立場からの意見表明がされ、報告は承認として、信仰職制委員会、

「9月30日現在、献金は3823万3710円。東中国教区と岡山キリスト災害支援室が主催する『まびくら』に800万円を送金したほか、昨年の台風24号で被害を受けていた在日大韓基督教会大阪教会にお見舞い200万円を送った」と

報告した。教師養成制度検討委員会の報告において、菅原力委員長は、第41回教団総会で教憲9条変更とを受けて、二種教職制についての議論を終了することを報告。これまでに、「教憲9条作業検討委員会」(2004、2006年に設置)の小林眞委員長、藤掛順一書記、および、梅崎浩二変

更議案提案者、近藤勝彦元東京神学大学学長から話を聞いた内容を詳細に報告した。梅崎常議員は、「共通するところを基盤として前に進んでいくことを希望する」と述べた。

報告があり、合格者を承認した。前回、採決を見送った部落解放センター決算、予算を承認した。指摘されていた教団からセクターへの繰入金とセンター側の繰入金の間の齟齬は、教団財務において「定期代伝票仕分けが食い違っていたのが原因」との説明があり、修正がなされた。

方針展開検討小委員会が進めている献金運動により献けられた献金を小規模教会が活かしきれぬよう、教区の配慮を求める声が上がった。また、二小委員会の協議内容を常議員会がメール等を活用してすみやかに共有できるようにして欲しいとの要望があった。質疑と協議を終えて、伝道対策検討委員会報告は承認された。



「聖書」の語源を辿ると紙の原料に行き着く。牧師たる者、急速に進む紙離れに抗い、紙媒体にこだわりたい。▼「辞書」において電子データベースへの変化が起こり始めていた頃、教育現場では「紙の辞書に慣れたから電子辞書を使うべき」と勧められていたが、今はどうだろうか。▼聖書科講師として授業を受け持っているミッシェンスクールでは、教員だけでなく学生にも一人一台、タブレットが付与されている。配布物がメールで送られるだけでなく、授業では電子黒板にレジュメが映し出され、同時に各自のタブレットに送信される。▼聖書科くらいはチョークで板書し、紙と鉛筆を使ってノートを取らせるスタイルを貴きたい。そう意気込んで黒板に向かって、背後から「パシャ」「パシャ」と鳴り響く電子音が包まれる。タブレットのカメラで板書を写す音だ。紙と鉛筆でノートをまとめることを涵養する思いは一気に失せてしまう。「紙に立ち返れ」と叫ぶ声は空しく響いただけだった。▼先日、スマホに聖書アプリをインストールした。聖書すら紙離れをしかねない時代、新報紙面は紙で読み続けられることを願っている。

第41総会期
第5回
常議員会

財務関連

沖縄宣教連帯金を120万円に

財務関連は、まず19年度教団歳入歳出第一次補正予算案が上程された。

経常会計の事業活動収入は、献金等により増加の一方、3職員への退職金支払いによる支出増のため差損が148万円生じ、実行予算比で22万円あまり拡大。収益事業会計の事業活動収入計は、各教区センターの法人税と消費税の代行納入の手数料の徴収をやめたため減少。収支はゼロとなる。

採決の結果、可決された。次に20年度教団歳入歳出予算案が審議された。

経常会計の事業活動収入では、教区負担金の減により、収入計で、前年度比343万1000円減の3億171万5000円。支出において、総会関係費、宣教関係費、人件費等が前年度比で減額されるものの、事業活動収支において、25万4000円の赤字となる。投資活動収支の80万円の黒字により、経常会計全体の収支では、予備

費に50万円を取った上で、4万6000円の黒字となる。

する中で戻すことで誠意が伝わる」との賛成意見も出た。石橋秀雄議長は「すぐに関係回復に至らなくても、教団側の問題意識として行いたい」と提案理由を述べた。

NCCの分担金が720万円と高額なことも議論になった。分担額は3年に一度更新のため、次の更新時に減額できるとNCCと協議していく方向性が示された。それに対し、今回は採決せずNCCと交渉した上で次回改めて審議する旨の動議が出た。採決の結果、修正案は少数否決。原案は賛否同数のため議長裁決で可決した。

20年度伝道資金の運用は、教区負担金合計値5450万9000円、交付額合計5364万3866円で可決。

東日本大震災被災教会堂・牧師館再建に係る借入金に関する件では、鹿島栄光教会の借入金残額の半額にあたる397

万7641円の返済を当該教会の事情に鑑みて免除すること、免除額の原資は救済対策事業会計とすることが提案された。残りは東北教区が負担する。これに同じく被災教区である奥羽教区から公平性の観点から懸念が示されたほか、期限延長等の条件変更で対処すべきとの意見も出たが、賛成多数で可決された。

（米山恭平報）



報告する
宇田真予算決算委員長

世界宣教委員会・国際関係委員会

青年派遣プログラム好評

9月27日、第2回世界宣教委員会並びに国際関係委員会を教団事務局で開いた。

まず確認されたのは、アジア、北米、南米、ヨーロッパへ派遣されている宣教師の状況である。提出してもらった報告書などを参考に、一人一人の様子を委員間で共有するように努めている。

宣教師はそれぞれ全く異なった文化や言語、政治的背景、そして経済状況の中で、教会や学校等

で求められているニーズに応えるべく奮闘しておられ、委員会としても可能な限り支援したいと考えている。具体的には、医療費や語学研修費の補助、必要に応じて緊急事態への支出も行っている。

また当委員会からの出張として、台湾基督長老教会総会や英国メソジスト教会年会等への参加、青年派遣プログラムの引率の報告を各担当者から

9月30日～10月1日、大阪クリスチャンセンタリー会議室にて開催した。運営委員長・各教区運営委員15名の出席と東京五支区やNCC代表者ら10名の陪席があった。

まず2月19日付で「天皇代替わりについて」の声明を教団内及び内閣府に送付したことが報告された。次に、部落差別問題を担当する部門が未設置の教区に対し、センターとしてきめ細やかな支援に努める旨を確認した。この具体的な形として今年には奥羽教区へ働きかけを行なった。

また、第41総会期第4回常議員会で継続審議と

師、またその後任として派遣されることを決断した教師がいた。国内での異動もさることながら、海外派遣ならではの苦勞もあるかと思う。各宣教師を支える支援会共々、負担を少しでもカバーできるようにしたい。

今年も10月6日に世界宣教の日献金をお願いした。「海外で働く教団宣教師を覚えるために」、「海外プログラム参加青年のために」、「ギリスト者留学生奨学金のために」の三本柱としている。尊い献金に感謝している。

（近藤 誠報）

全国財務委員長会議・予算決算委員会

教区財政縮小の中で課題を共有

《全国財務委員長会議》

第41総会期第1回全国財務委員長会議が9月26～27日、教団会議室で開催され、16教区の財務委員長の出席があった。

一日目は秋山徹教団総幹事、宇田真予算決算委員長長の挨拶後、16教区の財務委員長全員から心のこもった報告がなされた。止まらない信徒数減少に伴う献金額減少、教勢は確実に低下している。教区全体の活動費も減り、支障がでてきている。それでも活動はなるべく縮小しないように必死で努力している財務委

員長たちの姿があった。小規模教会と大規模教会、都市部と農村部の格差が激しい。小さい教会を助けようとする大きな教会の負担が大きくなりすぎる。互助資金はだんだん増える傾向にある。その財源はどうするべきか。また独自の大きな問題を抱えた教区や教区自体の機構改定が喫緊の課題との意見も出された。近年各地で起る大災害、いつ必要となるかわからない災害対応資金の準備がどの教区にも求められている。これも財政難の中にあっても避けて通れない案件である。

二日目は年金局と出版局の報告の後、久世そらち教団副議長の「日本基督教団伝道推進基本方針における機構改定について」の発題があった。午後からはそれぞれの教区の問題点を分かち合ったり、自分の教区での方策など活発な意見が出された。若い人は生活そのものが精一杯でなかなか献金までは難しく、高齢者の年金に支えられている教会が多いのが現状である。そのような中、教区負担金をどのように決めていけばよいのかなど重い問題が山積している。残念なことこの厳しい

財政状況は、ほとんど教員一人一人にまで伝わっていない。しかし信徒は知る必要があり、共に乗り越えなくてはならない重要事項である。

（丸山玲子報）

第3回予算決算委員会

は9月26～27日、全国財務委員長会議前後に教団会議室で行われた。秋山徹総幹事並びに道家紀一総務幹事、大島義孝財務幹事より報告を受けた後、19年度補正予算案に関する件を取り扱った。

19年度第一次補正予算通常教務執行に支障がな

いよう配慮が加えられたものとされている。また可能な限り減額予算としたが、予備費の支出が50万円のため、特別な支出があれば、差損に陥る財務体質に変わりはない。また事務局より提示された20年度負担金算定案につき協議を行い、予算原案並びに20年度負担金算定案を、全国財務委員長会議に提示することとした。

その他東日本大震災の罹災に伴う東北教区鹿島栄光教会に関する「被災教会堂・牧師館再建に係る借入金・残額返済免除に関して、委員会として返済に苦慮している教会もあり、また公平性の観点から残金返済免除ではなく返済計画見直しと返済猶予の提案を再確認した。

（中村公一報）

部落解放センター運営委員会

積立の運用方針を協議

9月30日～10月1日、大阪クリスチャンセンタリー会議室にて開催した。運営委員長・各教区運営委員15名の出席と東京五支区やNCC代表者ら10名の陪席があった。

まず2月19日付で「天皇代替わりについて」の声明を教団内及び内閣府に送付したことが報告された。次に、部落差別問題を担当する部門が未設置の教区に対し、センターとしてきめ細やかな支援に努める旨を確認した。この具体的な形として今年には奥羽教区へ働きかけを行なった。

また、第41総会期第4回常議員会で継続審議と

なつた18年度決算・19年度予算の修正案を協議し承認した。人件費の記載に誤差が生じた点は教団事務局の指示によるものでセンター側に瑕疵はない。だが同時に指摘された運営資金積立は、明確な目的を定め、説明責任を果たしながら運用する必要があることを確認した。今後は、同資金が部落解放のために献けられたことを念頭に置き、これまでの理解を継承する形で、①センター活動に直結する建物等の修繕に用いること、②世界教会との繋がりを深め、部落解放の働きに参与する人材育成に用いること、を方針とした。

（後藤 慧報）

◆宣教師人事・支援委員会◆

宣教師を巡る課題を議論

第1回宣教師人事・支援委員会が10月3日、教団小会議室で開催された。出席者は清弘剛生委員長（頌栄教会）、ディヴィッド・リーディー書記（宣教協力学校協議会・青山学院大学理工学部教授）、小海光（ウエスレー財団）、李相勤（福知山教会）、岩田昌路（粕江教会）、事務局より加藤

誠幹事、高田輝樹職員、廣中佳実職員。

開会祈祷、委員長・書記選出後、前回議事録の承認、報告事項から入った。宣教協力学校協議会の働き、及び夏の台湾スタディーツアーの成果、学校訪問、出張、来日訪問者の件が報告された。

協議事項では、宣教師のビザの申請、任期延長

◆伝道委員会◆

及び満了に関して承認がなされた。また、その他では、過去10年間は、宣教師派遣を希望する学校数が増え、紹介できる宣教師数は上回り候補者探しに

苦慮していたが、現在はその需要と供給のバランスが逆転していることについて話し合われた。日本で宣教師として奉仕をしたい有能な候補が多くいることは喜ばしいことではあるが、宣教師の役割を理解し、必要としている受け入れ先を増やしていかなければならないことが確認された。

リーディー委員による閉会祈祷をもって閉会した。（D・リーディー報）

資金援助実施要綱改正の必要性を共有

第3回委員会が9月30日、10月1日に函館千歳教会にて行われた。開会礼拝では、柴田もゆる委員（会場教会牧師）が奨励を行い、その中、北海教区の現状についても触れた。殊に、同委員を代務者とする渡島福島教会が、決して多くはない信徒ではあるものの、福音の土壌を掘り続けるために祈りを合わせる様子を語り、委員一同印象深く聴いた。

20年3月開催予定の農村伝道に関する協議会について、西中国教区の協力を得られることが報告された。三次教会を会場に、同教区の「農」を語る会に合流する（合同開催）。全国からの参加者の交通事情を鑑み、プログラムの変更等さらなる協力を同教区に要請すること、教団からも発題者を推薦することを承認した。20年6月開催予定の教区伝道委員長会議につ

いては、会議の持ち方として分団協議に時間を割き、教区間の情報共有を密にすることを確認し、主題については継続審議する。

資金援助（一般貸出・会堂・牧師館の新築・増改築、土地・建物の購入のために上限1000万円）の運用について、実

3万8500円）。この制度は全国の教会・伝道所において有効に活用されていることから、協力教会・伝道所には部数維持してもらいたい。（村上恵理也報）

事務局報

佐藤政男氏（隠退教師）



19年9月19日逝去、83歳。福島県生まれ。63年東京神学大学院卒業。同年より自由ヶ丘、会津高田、両津教会を牧会し、東北学院榴ヶ岡高校に務め、岩沼教会を経て07年隠退。遺族は息・佐藤史さん。

19年9月19日逝去、83歳。福島県生まれ。63年東京神学大学院卒業。同年より自由ヶ丘、会津高田、両津教会を牧会し、東北学院榴ヶ岡高校に務め、岩沼教会を経て07年隠退。遺族は息・佐藤史さん。

19年9月20日逝去、88歳。兵庫県生まれ。56年同志社大学大学院卒業。同年より甲南、延岡東海、延岡城山、甲南、旭川六条、新得教会を牧会し、10年隠退。遺族は妻・芳賀敏子さん。

19年9月20日逝去、88歳。兵庫県生まれ。56年同志社大学大学院卒業。同年より甲南、延岡東海、延岡城山、甲南、旭川六条、新得教会を牧会し、10年隠退。遺族は妻・芳賀敏子さん。

19年9月20日逝去、88歳。兵庫県生まれ。56年同志社大学大学院卒業。同年より甲南、延岡東海、延岡城山、甲南、旭川六条、新得教会を牧会し、10年隠退。遺族は妻・芳賀敏子さん。

19年9月20日逝去、88歳。兵庫県生まれ。56年同志社大学大学院卒業。同年より甲南、延岡東海、延岡城山、甲南、旭川六条、新得教会を牧会し、10年隠退。遺族は妻・芳賀敏子さん。

委員会コラム

新しい革袋を模索

増田 将平

①教会および幼稚園におけるキリスト教教育の調査・企画

②キリスト教教育主事の育成・指導に必要な事項

③青年の指導に関する事項

教育委員会は、宣教委員会のもとに置かれている常設専門委員会です。

また、次総会期中に教会中高生・青年大会を開催する件（教育委員会、伝道委員会、伝道推進の共同提案）が宣教委員会

伝道に携わっている者たちの念願です。9月に開催された教区青年担当者会では秋山徹総幹事「教団青年プラットフォーム」の経過報告をし、今後の青年伝道を共に考えていきたいと述べ、活発な意見交換がなされ

19年9月20日逝去、84歳。トラック諸島（現ミ

19年9月20日逝去、84歳。トラック諸島（現ミ

19年9月20日逝去、84歳。トラック諸島（現ミ

19年9月20日逝去、84歳。トラック諸島（現ミ

19年9月20日逝去、84歳。トラック諸島（現ミ

宣教師を巡る課題を議論

資金援助実施要綱改正の必要性を共有

事務局報

委員会コラム

新しい革袋を模索

増田 将平

教育委員会

委員会コラム

新しい革袋を模索

③青年の指導に関する事項

②キリスト教教育主事の育成・指導に必要な事項

①教会および幼稚園におけるキリスト教教育の調査・企画

教育委員会は、宣教委員会のもとに置かれている常設専門委員会です。

また、次総会期中に教会中高生・青年大会を開催する件（教育委員会、伝道委員会、伝道推進の共同提案）が宣教委員会

伝道に携わっている者たちの念願です。9月に開催された教区青年担当者会では秋山徹総幹事「教団青年プラットフォーム」の経過報告をし、今後の青年伝道を共に考えていきたいと述べ、活発な意見交換がなされ

19年9月20日逝去、84歳。トラック諸島（現ミ

19年9月20日逝去、84歳。トラック諸島（現ミ

19年9月20日逝去、84歳。トラック諸島（現ミ

台風19号豪雨 緊急救援募金のお願い

10月12～13日にかけて東日本広域にわたって襲った台風19号による記録的豪雨により、多くの犠牲者、被災者が出ています。特に、奥羽、東北、関東、東京、西東京、神奈川、東海各教区の教会、地域に被害が報告されています。ただちに募金を開始いたします。祈りをもってご協力をいただきますよう、お願い申し上げます。

2019年10月15日
◎送金先 加入者名=日本基督教団社会委員会、郵便振替=00150-2-593699（通信欄に「台風19号豪雨緊急救援募金」とお書きください）
日本基督教団社会委員会

各教区の被災状況の詳細はホームページをご覧ください。
台風19号救援対策委員会

日本伝道の推進を祈る日

領主。
9月末に各教会・伝道所へポスターとちらしにてご案内した「日本基督教団伝道推進基本方針」の具体的な展開（毎月第3主日に伝道困難な教会・伝道所をおぼえて祈る）が全教団的に始まります。詳細な取り組みについては『信徒の友11月号』28～29頁の石橋秀雄教団総会議長の記事をお読みください。新報4913号および教団公式HPでも掲載しています。『信徒の友12月号』掲載の2教区（北海教区・奥羽教区）から始まって、教区の伝道の取り組みや、困難な状況の中、伝道に励んでいる教会・伝道所が順次紹介されます。是非、お読みの上、お祈りください。
日本基督教団総幹事 秋山 徹

お知らせ

この度、教師検定試験問題集③（2009年秋・2019年秋）を発行しました。補教師・正教師の学科試験の全問題、説教・釈義テキスト一覧、組織神学論文課題一覧を所収（600円）。

お申込みは教師検定委員会（03-3320-0210）まで。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。

お詫び・訂正 教団新報4912・13号1面、右上肩囲み内、左1行目、定価・本体「133円」を「137円」に、お詫びして訂正いたします。



上、生徒と談笑する植田真一
下、『後世への最大遺物』の授業を行う中山昇

清教学園の始まりは、ユニークである。太平洋戦争後、人心の混乱の中、河内長野教会の日曜学校に集う生徒たちが「聖書に基づいた学びのできる、自分たちの学校が欲しい」と熱心に祈ったのが、その始まりであった。生徒たち自身の自発的な祈りから学校が作られたという創立の歴史は、世界中を見渡しても、そうはあるまい。

1948 年以来、生徒たちは、自分たちの学校を設立するために、「すくど」（焚きつけ用の枯葉）を拾い集めてそれを街中で売り、募金活動を続けていた。1950 年、この生徒たちの熱い思いに周りの大人たちも応え、河内長野教会の信徒全員の心に「キリスト教を土台にした学校を作ろう」という夢が芽生えた。そしてそのとき、植田真一と中山昇という二人の人物が神様からの特段の召命を受け、清教学園の創立のために自分自身の人生を捧げるという道を選んだ。

植田真一（1896 ～ 1989）は、米
国カンバーランド長老教会の宣教師
として来日し河内長野教会の創立者
ともなった A.D.ヘール牧師が同教会
で洗礼を受けた最後の信徒であり、
公立学校の校長をしていた。神様
は、清教学園の設立を実現するため、
学校での職務経験のある植田を召
したのであった。設立運動に加わ
った植田は、公立学校の退職金の
大半を献金するとともに、1950 年
1 月、学園の掲げるヴィジョンを具
体化するために設立趣旨書を起草し
た。この趣旨書により、「神を愛し、
人を愛し、而も、真理を追求して知
性を高める、真の基督精神の道場た
る、生きたる学校を作る」という明
確な目標が皆の中に定まった。

その後も多くの人々が献身を重ね、
趣意書の起草からわずか 1 年 3 ヶ
月後の 1951 年 4 月、神様は奇跡
を起こされ、清教学園中学校の創立
が成った。そして植田は初代校長と
なった。わずか全校生徒 49 名の小
さな学校ではあったが、清教学園
は神様の臨在を覚えることのできる
喜びの場所であった。

南大阪の田舎に位置する学園は、
世の中が高度経済成長の時代になっ
ても、経営が順調に進むのに十分な
ほどの生徒数を集めることは叶わ
ず、校長の植田にとって学園運営は
苦難の連続であった。しかし、植田
は校舎建築の現場で自らも作業を行
うなど身をもって範を示しつつ、主
の言葉に忠実に仕え続けた。そして
1968 年に再び神様が奇跡を起こさ
れ、清教学園には高等学校を設立す
る機会が与えられた。

その後、1980 年代に入ると、清教
学園は全生徒数が 1,000 人を超える
学校に成長し、植田は神様の御業に
感謝しながら、現役校長のまま 93
歳で天に召された。生徒たちと共に
過ごすことを好み、気概を持って語

宣教師からの声

清教学園の創立ー祈りから生まれた学校

植野 公稔

(学校法人清教学園 法人事務局長)

りかけ続けた植田の教育姿勢は、生
徒たちの魂に情熱の大切さを感じ取
らせた。「生徒が看板である」とい
う清教学園の伝統は、いまや地域の
誰もが知るところであるが、これこ
そが植田における信仰の遺産である
と言える。

もう一人の創立者である中山昇
(1925 ～) は、清教学園の設立運動
を興した生徒たちを日曜学校で教え
る教師であった。戦争による荒廃の
中、本当の意味での人づくりが必要
だと心の底から思っていた中山に
とって、「日曜学校の生徒たちの熱い
願いは神様が自分自身に与えてく
ださった道を示すものである」とい
うことを信じるのに時間は必要な
かった。また中山の固い意志を知っ
た両親は、1950 年 1 月、息子に相
続する予定だった家を教会に捧げ
ると決意し、清教学園の設立運動が
大きく前進する一助をなした。

清教学園中学校の創立が成った後
は、教育者としての先達である植田
のもと、中山は 40 年近くにわたり
教頭として清教学園の教育内容の充
実化に身を捧げた。創立理念を体現
する中山の授業や礼拝説教は、神様
の栄光をあらわす生き方について生
徒たちと共に考えるという真摯な内
容のものであった。とくに卒業前
の中 3 生たちと共に 1 か月以上の長
い時間をかけて内村鑑三著『後世へ

の最大遺物』を精読し討論する授業
は、信仰を持って生きることの大切
さを知る契機を生徒たちにもたらす
と同時に、主体的にじっくり物事を
考え、自分に与えられた賜物を生か
せるような人材へと生徒たちを育成
していった。中山の教えを受けて
育った生徒たちの多くは、「その賜物
を生かし、互いに仕え合いなさい」
(ペトロ 4・10) という聖書の言
葉を胸に深く刻み、その後も広く社
会で活躍・奉仕していった。

植田が天に召された後、中山は理
事長・校長として清教学園を率い、
神様の御心を謙虚に尋ねながら、生
徒たち一人ひとりの賜物を生かす教
育をさらに推し進めた。中山による
学校運営の成果が実った 2000 年代、
清教学園は全校生徒が約 2,000 人の
学校にまで発展し、地域で最も信頼
される学校の一つになった。今も中
山は「神様は『創る』ことを喜び
とされた。創立以来、数々の苦勞を
耐え忍んだが、『学校を作る』とい
うことに皆と共に身を捧げること
によって、私たちは神様から喜びを
いただくことができた」としばしば口
にする。

皆と共に祈り作り上げてきた清教
学園が主の恵みにあずかり存続して
いること、これこそが中山における
信仰の証しであると言える。

(Kyodan Newsletter より)



合田 知善さん

宇宙、地域、教会ー夢をも って歩み続ける



向河原教員。NEC 宇宙シ
ステム事業部。

合田さんの仕事は「宇宙」。
現在、JAXA「はやぶさ
2」プロジェクト等の地上シ
ステム整備に従事している。

子ども時代を過ごした米テキ
サス州ヒューストンには N A
S A 管制センターがあり、映
画のようなコンピュータやロ
ケット、月の石、スペースシャ
トルの掲示物に触れ、宇宙に
憧れた。もちろん、スター・
ウォーズの大ファン。

宇宙関係の仕事に就きたい
という願いが聞かれたとき
は、「キリスト者としてこの
仕事をしなさい」と言われた
ように感じた。最初のプロ
ジェクトは、宇宙ステーション
に載せるソフトウェア開発
で 10 年以上要した。次はそれ

を動かす地上システムの設備
でさらに 10 年。気の遠くなる
ような時間も、夢があつて楽
しいと合田さんは語る。

キリスト者の両親と共に広
島教会で合田さんの教会生活
は始まった。幼児洗礼を受け、
毎週礼拝に通った。その後、
父親の転勤で玉川平安教会、
さらにヒューストンの長老教
会へと移る。ここでは小学 6
年生で堅信礼教育があり、同
級生が皆堅信礼を受けた。合
田さんも帰国して中学 2 年生
で信仰告白をした。「ちゃん
と準備しなさい」と親に言わ
れて立ち止まるも、マクラウ
ド宣教師の言葉に背中を押さ

れた。「神が決めること。君
は信じて任せればいい」。
主日だけでなく平日にも友
人たちと夕べの聖書研究会に
通ったと言うので、驚いて聞
き返すと、「教会に好きな子
がいたから」と合田さんは笑
う。受験中でも教会に休みに
来たし、離れたことは一度も
ない。

現在は向河原教会の役員を
務める。教会も地域も台風で
被災し、ボランティアにも忙
しい。そんな合田さんの原動
力は何か尋ねると、すぐに答
えが返ってきた。「伝道した
い」。どこに赴くときにも、
この思いを持ち歩いている。

越谷教会の住所は御殿町だ。
徳川家康の別荘があった地であ
り町名が御殿町。越谷で一番地
盤の強い地だ。

中越地震の時、十日町教会が
避難所となりボランティアセン
ターとなって、教会堂が用いら
れているのを見て、災害時には
教会を避難所に出るのか、耐震
診断を行った。その結果強い建
物であることが証明された。

今年の始めに町内会から「避
難所にして欲しい」との依頼が
あり、喜んで承諾した。そして、
10 月の役員会では、一人暮らし

の信徒が召され、資産を教会に
寄付されることになったので、
これを基金としてソーラーシ
ステムを設置して避難所としての
整備をすることにした。

御殿町の避難所

そして台風 19 号が猛威を振
るった。御殿町は大きな橋二
つ、小さな橋三つ。橋を渡らな
ければ御殿町には入れない。私
の家の前は中規模の川で、台風
接近にともない 30 時間、市から

委託された業者が監視をしつづ
けた。水位が上がリ、避難すべ
きかどうか、迷ったが、2 階に
寝れば大丈夫と思って避難しな
かった。町内会の要請で、教会
に 4 組のご夫妻が避難してこら
れた。次の朝、台風が去って、「安
心して眠れました」と感謝して
帰られた。「震度 5 を超えて交
通がとまったら園児を無理して
迎えに来ないでください」と保
護者に伝えてある。園舎でもあ
る教会建物には毛布、食料、水
など三日分が備えられている。
(教団総会議長 石橋秀雄)